

第1学年月組 “かたち” づくりで 「よく学び・よく遊べ」

指導者 和田 光平

単元目標

- ものの形を認め、形の特徴を知るとともに、具体物を用いて形を作ったり、分解したりすることができる。
- ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすることができる。
- 身の回りにあるもの、形の形に親しみ、算数で学んだことよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

全7時間（ビルドタイプ×スパイラル型）

子どもの姿と支え方

Choice（第2・4時）

それぞれが作った“かたち”をシルエット（影）にして改めて共有し複数の課題として提示することで、どの“かたち”と同じものを作っていくか学習課題を自ら選択できるようにする。

Challenge（第1・3・5時）

色板やパターンブロック、綿棒を用いて、“かたち”をつくる楽しさに目を向けさせることで、新しい“かたち”を追い求めることができるようにする。

追究

第2時：どうすれば同じ“かたち”をつくれるかな。

出合い

第1時：同じ「さんかく」でどんな“かたち”をつくれるかな。

今の子ども姿

「いろいろなかたち」の学習では、身の回りにある箱や容器を持ちより、高さを競って積み上げたり、動物やロボットなど何かに見立てて組み合わせたりするなどの遊びを通して、ものの“かたち”に多くの子どもが親しんだ。また、「さんかく」「しかく」「まる」など、“かたち”に着目し、仲間分けすることも経験したことで、“かたち”として捉え、それらを組み合わせる新しい“かたち”をつくる“かたち”づくり」に期待感を持ち始めている。

今、本学級の子どもたちは、様々な“かたち”づくり」に挑み、「かたち”づくり」そのものの楽しさを味わいたいという思いを強く持っている。

「学びに向かう力」が涵養されている姿

“かたち”を構成したり分解したりする楽しさを感じ、学んだことを学習に活用しようとする姿

Check（第7時）

“かたち”づくりの楽しさを感じたり、図形感覚が豊かになったことを自覚したりすることができるように、単元全体の振り返りの視点を提示する。

振り返り

第7時：単元を振り返ろう。

意図的評価

第6時：同じ「ぼう」で、どんな“かたち”をつくれるかな。②

第5時：同じ「ぼう」で、どんな“かたち”をつくれるかな。①（本時）

Critical Thinking（第1～6時）

自分が作った“かたち”と友達がつくった“かたち”を比較することで、同じように見えても構成が違うことに気付き、さらに“かたち”づくりの見方や考え方が広がるようにする。

Creativity（第1～6時）

面構成から線構成へと単元を通して“かたち”づくりを発展させていくことで、「だったら、こうすればできるかな」「さっきと同じようにこうすればいいな」など統合的・発展的に“かたち”を捉えることができるようにする。

Collaboration（第1・3・5時）

新しくできた“かたち”を紹介し合うことで、自分にはなかった“かたち”の捉え方に気が付き、もっと広い視点を持って新しい“かたち”を追い求めようという気持ちを高める。

単元構想の意義

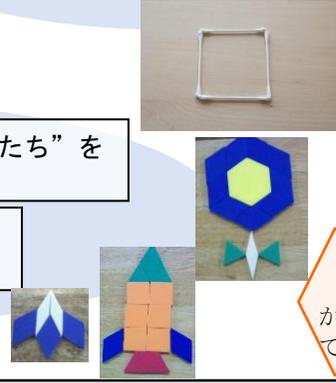
子どもたちの「この“かたち”〇〇みたい」「もっといろんな“かたち”をつかってみたい」という素直な思いに寄り添って、本単元を構想した。子どもたちは、日常的に折り紙をしたり、ちぎり絵をしたりする中で自分がつくった“かたち”を何かに見立てて楽しんでいる。これは、図形概念を得させる第一歩であり、算数・数学における図形領域の学習の大切な入り口になる。

子どもたちは、単元を通して“かたち”づくりを楽しみながら、ものの形を認め特徴を捉えていく。これらの経験を積み重ねることで“かたち”づくりの面白さや“かたち”そのものの美しさを感じ、今後の図形領域の学習に活用しようとする思いを持つことにつながると期待している。

どんな“かたち”をつくることができるかな。

第4時：どうすれば同じ“かたち”をつくれるかな。

第3時：いろいろなかたちで、どんな“かたち”をつくれるかな。



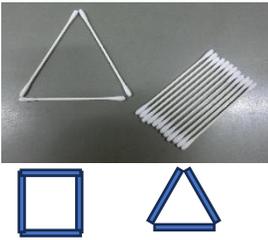
本時の授業 (5/7)

- 1 日時 令和6年10月25日(金) 9:50~10:35
 2 場所 1年月組教室
 3 目標 面構成で作ってきた“かたち”を同じ棒(綿棒)を使って構成する仕方を考えることができる。

本時における「学びに向かう力」が涵養されている姿

- 図形及びそれらを構成する要素の関係に着目し、自分がつくりたい“かたち”にするためにはどうすればよいか、構成の仕方を粘り強く考える姿。

【Creativity】 ☆粘り強さ

学習活動	1 既習事項を振り返るとともに、線構成について新たに知る。	2 複数の「さんかく」を構成する仕方について考える。	3 綿棒を使って今までつくってきた“かたち”を表現する。	4 本時を振り返る。	場面	単元の評価規準
<p>予想される子どもの意識の流れ</p> <p>これまで、どんなかたちづくりをしてきたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ「さんかく」をくみあわせていく。 いろいろなかたちを組み合わせてみたよ。 棒を使って「さんかく」や「しかく」をつくることができたよ。 	<p>ぼうをつかっ、どんな“かたち”をつくることのできるかな。</p> <p>「さんかく」をつくるには、何本の棒が必要かな？</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの「さんかく」は6本必要だよ。△△ 3つの「さんかく」は9本必要だよ。△△△ <p>4つの「さんかく」をつくるには、何本の棒が必要かな？</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じようにすれば、12本いるよ。△△△△ 12本よりも少ない数でできたよ。 9本でもできたよ。 	<p>棒を使って、どんな“かたち”をつくってみたいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「さんかく」や「しかく」がつくれたから、他の“かたち”もつくってみたいな。 今までに作ってきた「いえ」や「さかな」のような“かたち”をつくるにはどうすればいいかな。 	<p>学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ“かたち”でも、見方を変えることで違う見方をすることができる。 棒を使っても、今までつくってきた“かたち”をつくることのできるな。 5つの「さんかく」をつくるにはどうすればいいかな。 もっとたくさんの棒があれば、他にもいろいろな“かたち”をつくることができそう。 	<p>場面</p> <p>出合い</p> <p>追究</p>	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな“かたち”をつくることに、興味・関心を持ってパターンブロックを用いた“かたち”づくりに取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】 パターンブロックや色板を用いて様々な“かたち”をつくることのできる。【知識・技能】 影絵の“かたち”を観察して、同じ“かたち”になるようにパターンブロックや色板の並べ方や枚数を考えることができる。【思考・判断・表現】 同じ棒(綿棒)を用いて様々な“かたち”をつくることのできる。【知識・技能】 	
<p>指導(○)と評価(●)</p>	<p>○ パターンブロックや色板を使った“かたち”づくりを振り返り、図形の見方が豊かになってきたことを確認できるようにする。</p>	<p>○ 「さんかく」1つが3本で出来るということを確認することができるように、問い返しを行う。</p> <p>○ 図形の捉え方について、多面的に考えたり、捉え直したりできるように、「あれ？思っていたのと違う！」と感じる場面を想定し、適宜問い返しを行う。</p>	<p>○ 今までにつくった“かたち”(パターンブロックや色板)を複数提示し、「だったら棒の時は、…」と線構成での“かたち”づくりの見通しを持てるようにする。【Creativity】</p> <p>● ものの形に着目し、具体的な操作を通して“かたち”の構成について考えることができたか。【写真・様態】</p>	<p>○ 「算数自分カード」を活用し、自分たちがつくった“かたち”について振り返る機会を保障し、学びを自覚できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ものの形に着目し、具体的な操作を通して“かたち”の構成について考えることができる。【思考・判断・表現】 同じ“かたち”でも見方を変えれば、違う“かたち”として捉えることができる。【思考・判断・表現】 “かたち”づくりの楽しさに気付き、学んだことを学習に活用しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 	